

リーダーになる!

実践する上司学。

嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第37回 一対二で向き合う

1人の部下を「ただの1人」とあなどってははいけません。その後ろには、常に部門の全メンバーが控えていて、あなたの上司としての対応を見えています。

1人への対応 部署全体に影響

上司ともなれば、部下が1人だけというケースはまれです。複数の部下を持つ

というケースのほうが一般的なはず。中には、10人以上の部下を持っているという人もいます。

たくさん部下を持っていると、全員（あるいは複

数）の部下の前で話をするときには力を注ぐが、一対一の関係のときにはついつい力を抜いてしまっているという人も、たまに見掛けます。

「ただでさえ忙しいのに、一人一人の部下とじっくり向かい合うなんて無理」というのは、たくさん部下を持つ上司の本音かもしれません。しかし、この態度には大きな問題があります。

一対二で部下と向かい合っているとき、あなたは、目の前の部下のことだけを見ているのかもしれない。しかし、その部下の後ろには、あなたの部署全員がいるということをお忘れなください。もし、あなたが一

人の部下に対して、いいかげんな態度をとったとしたら、その部下は「〇〇主任は、まともに話を聞いてくれないよ。忙しいのかもしれないけど、適当にあしらわれた感じだな」と、ほかの部下にも話すものです。すると、部署の全員に「部下の話を聞いてくれない上司」「適当な返事しか返さない上司」という認識を持たれかねません。

1人からの信頼 広がり好環境育む

こうなってしまうと、朝礼など全員の前で立派なことを言っても、まるで説得力がなくなってしまうま

載

